

医科学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
	1年次	30 ※－ (30)	学内	学外	学内	学外	56 ※1 (57)	学内	学外
			12 ※－ (14)	80 ※4 (97)	11 ※－ (14)	70 ※3 (92)		10 ※－ (9)	36 ※1 (40)
学生の進路 (人)	修了者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他	
			企業	教員	公務員				
	42 ※2 (49)	19 ※－ (18)	15 ※－ (17)	1 ※－ (1)	3 ※－ (－)	－ ※－ (1)	19 ※2 (23)	4 ※－ (7)	

・ () は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 医科学研究科の活動

- (1) 教育目標の設定：医科学研究科では設立当初から医科学の各分野の研究者、教育者、高度職業人の育成を教育目標として掲げている。平成15年度もこの教育目標の達成を目指して教育を行った。
- (2) 教育課程の見直し状況：平成14年度には医学専門学群に看護・医療科学類が創設され、年次進行的に担当教官が発令されている。医科学研究科としてはこれら教官の参加を得て、看護科学、ヘルスケアの分野を中心に大幅なカリキュラムの改編と拡充を行った。
- (3) 教育研究指導・教育方法の改善：修士論文のレベルを維持しさらに向上させるために、他グループの若手教官から、2回の修士論文公開発表や修士論文査読を通して批判・助言が受けられるよう配慮した。また、学生の意向調査の結果を取り入れ、所属研究室の決定の時期については弾力性を持たせることとした。
- (4) 社会との連携：平成15年度も全国の大学への研究科案内とポスターの送付、ホームページの充実、社会人に開かれた大学展への出展などによる広報活動に努めた。とくに7月に開催したオープンハウスは、全国から157名の受験希望者が参加して夕方遅くまで研究室を訪問し、成果が大きかった。

2 教員の教育業績評価の状況

講義・実習については特に実施しなかった。修士論文研究については、カリキュラム委員が2回の修士論文研究公開発表会と提出された修士論文の内容を検討し、研究指導體制の評価を行った。また、修士論文公開発表会後に研究科担当の全教官に優秀論文の推薦依頼を行い、発表会で座長を務めた教官を中心に合議により約1割の論文を優秀論文として表彰した。

3 自己評価と課題

- (1) 活動の自己評価：平成16年度の法人化を控え、自己点検・評価を基に医科学研究科の中期目標・中期計画を策定した。

一方、平成14年4月に入学した者は49名、2学期入学者1名で、その内2年後の平成16年3月課程修了者は42名であった。休学中は2名、退学は6名であったが、退学者の内2名は医学部学士編入学試験合格による医学部医学科への進学のためであった。休学、退学の事由としては経済的なものが目立った。

- (2) 課題：国民の医療に対する意識改革、先端医療の進歩により、患者の権利を擁護し医療の質を高めるための、保健・医療・福祉サービスに対する社会ニーズが高まりつつある。医科学研究科では、従来の「医科学専攻」に加え、わが国では初めての「医療福祉科学専攻」新設の概算要求を行っている。また一方で、「連携大学院方式の導入」の概算要求を行っている。これらの実現が重要課題である。また、平成14年度創設された医学専門学群看護・医療科学類に関して、医科学研究科としては数年後を目途に、カリキュラムや研究指導體制の拡充を行い、同学類卒業生の受け入れを検討していく必要がある。